【授業科目】看護倫理　　Nursing Ethics

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
三好 陽子、日比 千恵	1 年次 前　期	必　修	2	３０	講　義	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する フィードバック方法	1. 医療・看護倫理の歴史的背景を学び、医療・看護倫理の必要性・重要性について理解を深める。 2. 複雑かつ多様な看護実践上の倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処能力を培うことを目的に、看護倫理を探求する上で基盤となる諸理論や諸概念、様々な倫理的意思決定の方法論、活用方法等について学修する。 3. 事例分析を通して、看護の各専門分野で起こる可能性が高い倫理的課題への対応を探求する。 授業は実務家教員が進める（三好、日比）。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／授業の中でディスカッションの時間を設ける。レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	1) 医療・看護倫理の歴史的変遷の理解を踏まえ、医療・看護倫理の必要性・重要性について考えを述べることができる。 2) 看護倫理の基盤となる諸理論や諸概念について概説できる。 3) 倫理的問題の概要と倫理的意思決定のためのアプローチの方法論を活用し、臨床で遭遇する倫理的問題・課題やジレンマ（事例）について討議することができる。 4) 臨床看護研究活動における研究倫理（倫理的配慮）の必要性と研究者の基本的責務について説明できる。 5) 看護者が看護実践上の倫理的問題・課題の明確化、調整・解決への対処能力を培うことの意味、重要性を再考し、看護実践において倫理的責任を果たすための自己の課題を考察し発言することができる。
時間外学習に必要な 内容・時間	① 配布資料や指定の参考書は、事前に通読して授業に臨むこと（各 60 分） ② 事例検討は、それまでの授業をもとに、自らの文献検討も含めて資料を作成しプレゼンテーションの準備をする。 （各 60 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1～2 回	倫理とは 生命・看護倫理の基盤となる理論・諸概念とその特徴：義務論、目的論、功利主義、徳の倫理など	三好
	第 3～5 回	生命倫理・看護倫理の歴史的変遷（課題学習の発表）	三好
	第 6～7 回	医療現場おける倫理的分析と意思決定ための方法論 倫理的葛藤とジレンマ 医療が直面する倫理的問題：認知症高齢患者の人権、周産期・遺伝・不妊	三好・日比
	第 8～11 回	生命・看護倫理の諸問題（具体的事例の動画視聴） ・妊娠中絶・出生前診断、脳死と臓器移植、終末期医療と安楽死など 生命・看護倫理の諸問題（課題学習の発表）	三好・日比
	第 12～13 回	研究方法における倫理的課題と留意点（老年・母性） ・研究分野に関する倫理的問題は何か（発表・討論）	三好・日比
	第 14～15 回	医療者として取り組むべき倫理的課題（課題発表） ・職業倫理（看護倫理綱領）	三好・日比
評価方法 評価基準	プレゼンテーション・レポート（80%）、授業参加態度（20%）などを合わせて総合的に評価する。		
教科書	適宜, 資料を配布する。	参考書等	サラ T･フライ, 片田範子他訳：看護実践の倫理, 第 3 版, 日本看護協会出版会, 2010. ジョイス･E. トンプソン他, ケイコイマイ･キシ他訳：看護倫理のための意思決定 10 のステップ, 日本看護協会出版会, 2010. 宮坂道夫：医療倫理学の方法, 第 3 版, 医学書院, 2016. 石垣靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン―身近な事例から倫理的問題を学ぶ, 日本看護協会出版会, 2012. 鶴若麻理, 麻原きよみ, ナラティヴでみる看護倫理, 南江堂, 2013. 宮脇美保子：看護実践のための倫理と責任―事例検討から学ぶ, 中央法規出版, 2014.